

高齢者への支援について

伊藤 勝 美



の適合条件、過去5年間の実績、市民への啓発の現状はどのようになっているのか。

【質問】特別養護老人ホームへの入所希望がありながら、入所できず多数の方々が待っている状況にあるが、定員増についての検討、関係機関との協議の状況、市民への対応はどのようになっているのか。

【答弁】【市長】総合的に勘案すると新たな定員増はできないと判断している。計画策定に合わせて県及び仙南2市7町との情報交換や協議を図っている。

今後は、第5期高齢者福祉計画を踏まえ、居宅サービスの充実に力を入れていく。

【私道助成制度の対応について】

【質問】町づくりには、道路のあり方は欠かせないものになっている。「私道整備助成制度」

【答弁】【教育長】同じ教育に携った者として非常に悲しい思いだ。今後、悪い情報には素早い対応、共通認識を持つよう校長会で指示を出した。

【道徳教育について】

【質問】最近、学校ではいじめ、学級崩壊、あいさつができないなど生活指導上の課題が社会問題になっている。道徳教育の充実が求められていると考えるが、小中学校における道徳教育の現状について伺う。

【答弁】【教育長】年間で35時間程度の授業がある。白石では「心育」が最重要課題と捉え、取り組んでいる。課題は、家庭、地域での更なる規範意識の向上が求められると

【教育行政について】

【質問】大津市の男子生徒が自殺した問題は社会を大きく揺るがせた。その後も深刻ないじめが相次いで発覚している事について所見を伺う。

【その他の質問】
○市長の2期目4年間の総括について
○市職員の研修と異動・退職等の対応について

これからの市政について

志村 新一郎



【質問】仙南、宮城県、東北、日本の中で光り輝く白石市をつくっていくことが大切と考えるが、2期8年を超えようとしており、市長の考えを市政にどのように反映し、リーダーシップをとった3期目の白石市の姿を描いているのかをお聞かせ願いたい。

【答弁】【市長】行政の役割というのは、民生の安定と市民の生命・財産を守ることであり、大震災により被害を受けた市民の一日も早い生活の再生と地域産業の再建をすることが必要であると考えている。平成23年度から10年間の第5次総合計画の

実現をめざし、まず、交流拠点都市づくりの重点取り組み事業として91の事業を実施し、「人・暮らし・環境が活きる交流拠点都市づくり」を目指していく。事業展開については、10年後を目指して果敢にチャレンジしていくが、社会の環境、経済状況によって随時見直しをしながら、最新の課題についてスピード感を持って対応していく所存である。

私が考えている最も大切なことは、雇用の確保と定住促進である。このためには企業誘致が最も重要であると考えている。

企業誘致については、県内でも早期に企業立地促進条例を制定するとともに、東京や名古屋で開催された企業立地セミナーに積極的に参加してPRをしてきたところである。

おかげさまで、白石インター工業団地へのセコム工業株式会社様、株式会社パルタック様、天王工業団地へのメークス株式会社様の企業誘致に成功したことは、工業団地のオーダーメイド方式からストック方式へ転換、積極的な誘致活動によるものと考えているところである。

工業の振興は雇用の確保、そして定住促進に寄与するものであると思っている。

今後も企業誘致も含めて積極的に行っていくきたいと思っている。